

『みんなのスポーツ』4月号 (No.502) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の4月号は「データから見るスポーツ推進委員の「いま」」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を4点記載します。



- (1) **巻頭言** スポーツ推進委員活動も多様性を読んで、地域スポーツを推進するうえで地域のスポーツのニーズを知り、ニーズに合った提案が求められていることは私も同感です。「これからのスポーツ推進とは何か」について議論を重ねて行くことが大事であり、「みんなのスポーツ」は手助けになる内容が盛り込まれていると考えています。以前も書きましたが、昨年9月に発行された改訂版ハンドブックも何度も読んでいます。みなさんと一歩ずつ活動を進めていきたいと思えます。今回はそのデータが出ており、さらにわかりやすく・ポイントを絞り書かれており本当にありがたいです。
- (2) P12 以降のデータに関して、参考になる点が多い。いくつもあるが例えば、**③スポーツ推進委員の選任と委嘱**についてである。スポーツ推進委員の選出母体は、横須賀市の場合は町内会・学区（全国でも 55.2%）からである。私はここ数年市に対して、**一般公募も併用して欲しい**と提案している。今回のデータでも4番目に多く、全国には**7.4%**方がおられる。市でも引き受け手がなくここ2年間で20数名が欠員になり全体では40名を超える欠員である。来年に向けて**「公募」**を働きかけていきたい。というのも神奈川県理事会・常任理事会や横須賀三浦ブロックで話を伺うと取り入れているところがあり、それらの市町では選ばれた人は**意識が高く、出席率も高い**など**成果も出て協議会が活性化してきた**という話を耳にするからである。
- (3) **わが町の健康・体カづくり** 島根県益田市；「スポーツの楽しさを多世代に繋ぐ」である。まずびっくりしたのが、委員は20～70歳代までで**平均年齢が45歳**（市は55歳）である。小学校の小規模校にもソフトバレーボールやペタンクなどを授業で取り組んでいる事。これらの経験を活かして、「益田っ子！親子いきいきプログラム」や小学校のクラブ活動でニュースポーツの指導ほか・・・色々なことに取り組まれている。私たち市でも神奈川県下では**唯一体育の授業に先生のサポートに伺っている、「学校授業サポート」**である。これらの繋がりから自分たちでもできることを考えてみたい。
- (4) (3)に関連して、3月号で山梨県北杜市ではウォーキングの時にゴミ拾いをするすることで、気軽に環境問題に参加して頂く記事を読んだ。4月に学区の「歩こう会」で一部（ゴミ拾い部分）行ってみた。先月も書いたが、北杜市は横須賀沖の東京湾で唯一の自然で無人島：猿島に、小学6年生が修学旅行の一貫でコロナ禍以前から来ていただいている、はじめは1校であったがだんだん増えてきている。案内の度に接していると児童たちは環境や自然保護に意識や感度が高いと常々感じていた。

そこで4月の歩こう会（神社巡りとごみ拾いウォーク）でまずは委員だけが試しにごみを拾ってみたら大きな袋2つを拾った。途中で気づいた一般の方からも私たちもとの声があった。準備の関係もあり今回は委員だけであったが、次回以降は巻き込んで行っていくか検討（コース、距離、出たごみの処分他）をして行きたい。

ホームページ「お知らせ」に上記のごみ拾いとごみの分類・量他について一部記載しています、時間のある時にご覧になってみてください。

今月号では4つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上